

# Monthly Letter

2010・Dec.



お問い合わせ info@of-i.jp

052-211-5185  
052-211-5186

名古屋市中区丸の内 2-10-30 インテリジェント林ビル 2F

## どんな気持ちで職場の飲み会に参加しているか

### ◆職場の人とお酒の飲み方に関する調査

キリン食生活文化研究所では「職場の人とお酒の飲み方に関する意識調査」を行い、先日その結果が発表されました。

職場の仲間や上司・部下とお酒を飲む機会の多寡は会社によってそれぞれ異なるでしょうが、各人がどのような思いで「飲み会」に参加しているのか、とても興味深い内容になっています。

### ◆飲み会は「コミュニケーション」のため

アンケート項目中の「職場の人とお酒を飲む際に期待すること」については、トップは上司・部下ともに「コミュニケーションをとりたい」でした。そして、自分の上司より部下と飲むときのほうがその期待は充足される傾向にあることがわかりました。

また、職場の人からの飲み会の誘いを断る際に「行けない理由をはっきり言って断る」人は4割以上いました。20代では、部下・後輩に対し「行けない理由をはっきり言う」割合(36.3%)が、上司に対する場合よりも低くなっています。

### ◆飲み会の平均額・平均回数は？

職場の人とお酒を飲むときの1回あたりの平均予算は4,401円(前年比129円マイナス)でした。月平均の回数は前年と同じ1.5回となっています。

上司が部下とお酒を飲む際におごる金額の平均は1回あたり7,092円で、エリア別に見ると1位は「北海道」で8,542円。2位は「北陸」で7,400円、3位は「東北」7,221円となっています。寒い地域で働いている人のほうが太っ腹なののでしょうか？

### ◆増える傾向にある「割り勘」

最近では、上司と部下で飲みに行っても「割り勘」とするケースが増えているようです。上記の調査とは別の調査では、「上下関係なく割り勘にすることが多い」と答えた20～59

歳の人は全体の24%に上りました。

年功序列が崩れつつあり、明確な上下関係意識が薄れつつあることの影響なのかどうかはわかりませんが、いずれにしても、社内でのコミュニケーションを図るうえで「飲み会」が有効な手段の1つであることは間違いないでしょう。

## いまどきの「課長」の実態は？

### ◆一部上場企業の課長 428 人の回答

産業能率大学がインターネット調査会社を通じて「上場企業の課長を取り巻く状況に関する調査」を今年9月に行い、その結果が公表されました。

従業員が100人以上の上場企業に勤務し、部下が1人以上いる「課長」428人が、「昇任前の経験」、「現在の悩み」、「上司の支援」、「今後のキャリア」などについて回答しています。

### ◆多くはマネージャー兼プレイヤー

まず、「プレイヤーとしての仕事の割合」についての質問では、「0%」と答えた人はわずか1.4%でした。プレイヤーとしての活動割合が半分より多い人は4割を超えています。

プレイングマネージャー化しているケースが多く、多くの課長がプレイヤーとしての活動を兼務していることがわかります。この傾向は、中小企業においてはなおさら強くなるでしょう。

### ◆仕事上の悩みとメンタルヘルス

次に、「仕事上の悩みを相談できる人がいるかどうか」との質問には、「いる」と答えた人が50.2%、「いない」と答えた人が49.8%と、ほぼ半数に分かれました。

「いる」と答えた人に対して「どのような相談者がいるのか」を尋ねたところ、「会社の上司」「会社の同僚」が多数でした。

また、「自分自身のメンタルヘルスに不安を感じたことがあるか」との質問には、「ある」と答えた人が43.7%、「ない」と答えた人が56.3%でした。その原因としては、「上司との人間関係」、「成果創出へのプレッシャー」、「仕事の内容」などが多くありました。

自分の身近に相談できる人がいるかどうかも、不安の有無に関係しているものと思われます。

### ◆やり甲斐をもって仕事に取り組めるか

自分が「課長としてイキイキと働いていると思うか」との質問では、「どちらかといえばイキイキと働いている」が54.9%、「イキイキと働いている」が6.8%でした。逆に言えば、

イキイキと働いていない人が約4割もいるということになります。

これら課長クラスにある方たちが、イキイキとやり甲斐をもって仕事に取り組める環境をつくるのが会社の仕事でもあり、それらができている会社はきっと成果を残している会社ということになるでしょう。

## 賃金収入は減少傾向、4人に1人「失業の不安」

### ◆労働者にとっては厳しい状況

連合総研では、10月に労働者を対象に実施した「勤労者の仕事と暮らしについてのアンケート」（勤労者短観）の結果を発表しました。

### ◆賃金収入は減少傾向に

1年前と比較した賃金収入の増減については、「減った」（32.9%）と回答した人が3割を超えており、前回調査（34.6%）と比べてもほとんど改善が見られませんでした。

また、今後1年の賃金収入見込みについて「減ると思う」（25.5%）と回答した人が前回調査（21.8%）を上回り、「増えると思う」（16.9%）と回答した人は前回調査（21.0%）から減少しています。悲観的な見方をする人の割合が高まっています。

### ◆4人に1人が「失業の不安」

次に、「今後1年間の失業の不安」について「感じる」と回答した人は25.0%で、過去最高を記録した昨年同月（28.3%）よりは低下しましたが、一昨年の同月調査（23.8%）を上回っています。

また、非正社員（男性53.6%、女性34.8%）や20代（32.9%）が感じる失業の不安は、相対的に高くなっています。

### ◆所定外労働、賃金不払い残業

このアンケート調査では、他にも「所定外労働の状況」「賃金不払い残業の状況」などについての調査を行っており、非常に興味深いものとなっていますので、連合総研のホームページ（<http://www.rengo-soken.or.jp/webpage/21.html>）を覗いてみてください。

## 「女性にやさしい職場づくりナビ MOBILE」

### ◆10月上旬に開設

厚生労働省では、携帯版の母性健康管理支援サイト「女性に優しい職場づくりナビ MOBILE」を10月上旬に開設しました。⇒ <http://www.bosei-navi.go.jp/mobile/>

これは、働く女性が働きながら安心して妊娠・出産を迎えられるように、妊娠中や出産後における職場での注意事項や母性健康管理措置に関する情報を提供するものです。

◆どんな内容が掲載されているか

このサイトでは、妊娠初期から産後休業後までの気になる症状別に、職場で安心・安全に過ごすためのポイントが紹介されています。妊娠中・出産休業後の女性へのアドバイスや、職場の方へのアドバイス、応急処置の方法なども掲載されています。

◆女性にやさしい職場づくり相談窓口

また、妊娠中、出産後の症状や法制度などに関する悩みについて、産科医・産業医・社会保険労務士などの専門家に携帯メールで相談することができます。

ここでは、妊産婦だけでなく、職場の方からの相談も受け付けています。

◆携帯で手軽に利用

今までパソコンを開く時間のなかった方でも、携帯であれば気軽に家事や仕事の合間に利用することができます、このサイトをより身近に感じることができるのではないのでしょうか。

「妊娠中や出産後も安心して働きたい」と考える女性は今後ますます増えることと思います。そういった意味でも、今後のこのサイトの充実に期待したいところです。

オフィス石野より一言：

今年も師走の時期となりました。毎年のことではありますが、本当に1年は早い！特に今年は、例年よりも暖かい12月ですので、余計に師走を感じにくいのかもかもしれません。さて、今月は当事務所の情報ばかりで恐縮ですが、以下の2つをご案内申し上げます。

① 中日新聞さんに記事を掲載して頂きました！

平成22年11月25日付の「中日新聞・市民版」の18面に当事務所を掲載して頂きました。ご存知のとおり、当事務所のスタッフは子育て真っ最中のワーキングママ達ですが、本人たちも事務所も何とかワークライフバランスに配慮しつつ、毎日をやりくりしております（笑）。

そんな私たちの奮闘記が掲載されております。ぜひご覧頂ければ幸いです！

⇒ [http://www.of-i.jp/news/documents/2010.11.25chunichi\\_001.pdf](http://www.of-i.jp/news/documents/2010.11.25chunichi_001.pdf)

② 年末年始休暇

**年末年始休暇：平成22年12月29日（水）～平成23年1月4日（火）**

（年内最終日は、12月28日（火）となります。よろしく願い申し上げます。）

では、今年もラストスパート！！心おきなく、張り切って参りましょう～。